



Taylor & Francis Group
an informa business

Taylor & Francisの転換契約

日本の学会様に向けて

27th January 2023
UniBio Pressセミナー

山之城チルド레스智子
Tomoko Yamanojo-Childress
Business Development Manager
Taylor & Francis Group



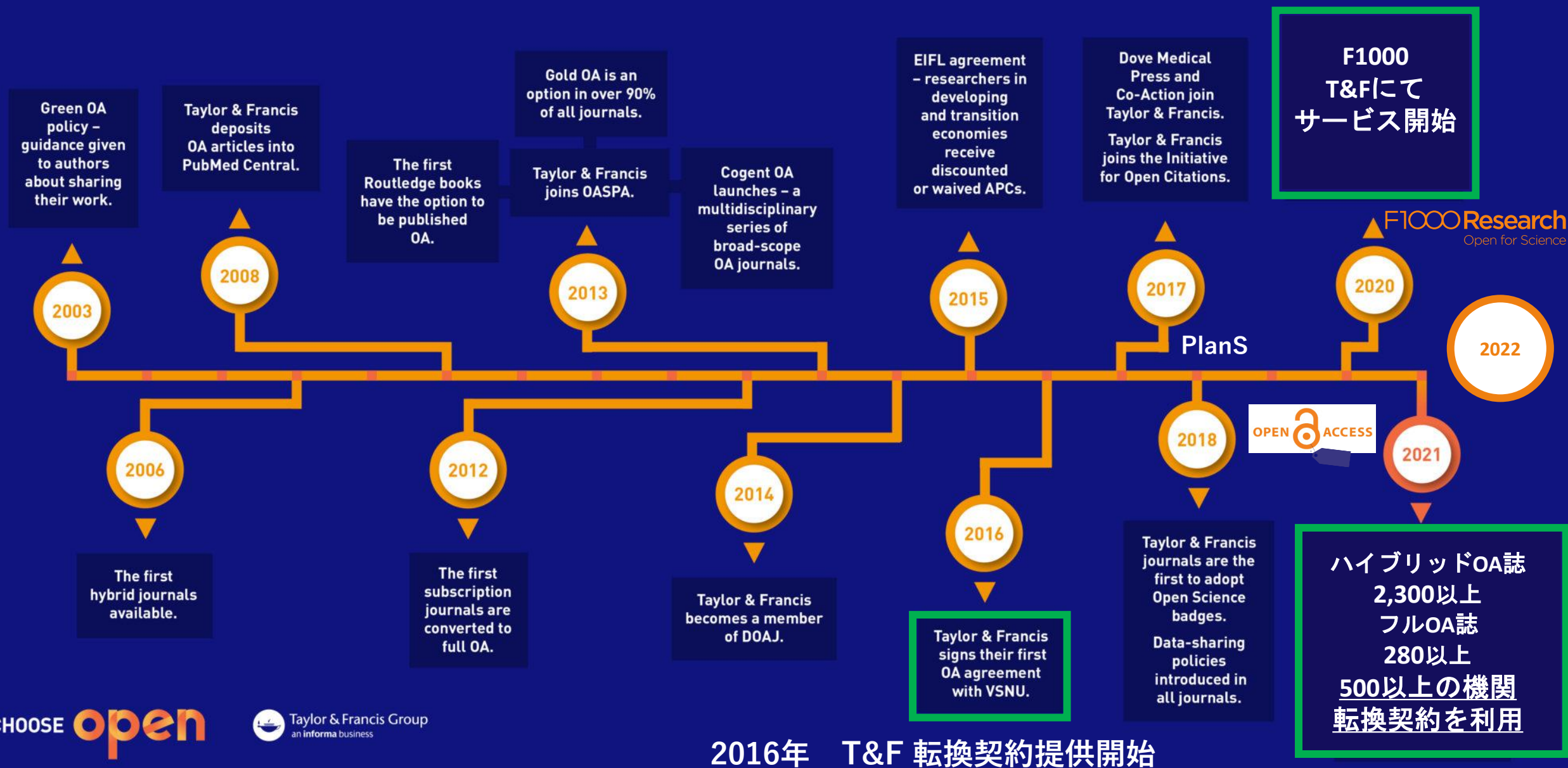
本日のプレゼンテーションのゴール

- Taylor & Francis 転換契約：グローバル / 日本の展開のご紹介
- 転換契約のインパクトを可能な限り多角的に分析
- パートナーシップを通じたOpen Researchへのアプローチのご紹介

アジェンダ

- Taylor & Francisの転換契約
- 転換契約のインパクト

TAYLOR & FRANCIS' JOURNEY WITH OPEN RESEARCH



2022

Open Access 世界の動向



8月25日: 米・科学技術政策局（OSTP）は、公的資金を得た研究成果について論文出版と同時に論文及び根拠データがオープンアクセス（OA）となる「即座OA」の方針を発表

9月20日: オーストラリア 国立保健医療研究評議会
NHMRC [Australia's National Health and Medical
Research Council] 新しいOA方針を発表

日本においてもOpen Access への移行を現実的に可能な限りスムーズに
研究者の皆様、各機関様、学会様がOAへ取り組みやすい現実的なモデルの模索

T&F Read & Publish model 日本で提供開始



Hybrid OA / Full OA

F1000, Japan Institutional Gateway
Supported by the University of Tsukuba

F1000Research
Open for Science





Read & Publish

2022年 Taylor & Francis 転換契約：日本において提供開始

大学図書館コンソーシアム連合：
JUSTICE様を通しての提供開始



Open Access への移行を
現実的に可能な限りスムーズに
購読費用 + OA出版費用 = 可能な限り抑えるモデル

ジャーナルの購読費用の一部をOA出版費用
に転換することでR&P契約機関所属の個人
研究者のAPC負担は軽減される

Taylor & Francis
an informa business

Search press releases on Newsroom Search

HOME JOURNALIST ACCESS PRESS RELEASES GUIDANCE FOR AUTHORS GUIDANCE FOR PRESS OFFICERS PRESS OFFICE CONTACTS

[T&F Newsroom](#) > JUSTICE Consortium and Taylor & Francis Sign New Open Access Agreement for Japan

Taylor & Francis news 14th December 2022

JUSTICE Consortium and Taylor & Francis Sign New Open Access Agreement for Japan

Share this press release

[Facebook](#) [LinkedIn](#) [Twitter](#)

Embargo Area

[Log in](#) to the Embargo Area for exclusive access to breaking research news, ahead of publication.

Contacts

Find the best [contact](#) for all media queries.

Member Libraries Invited To Opt In to the Read & Publish Deal

The Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources (JUSTICE) and Taylor & Francis have announced a new transformative agreement to increase open access (OA) publication of Japanese research.



日本でのTaylor & Francis 転換契約：ポイント

Read & Publish (R&P)



◆ 契約期間：3年

◆ オプトイン契約：

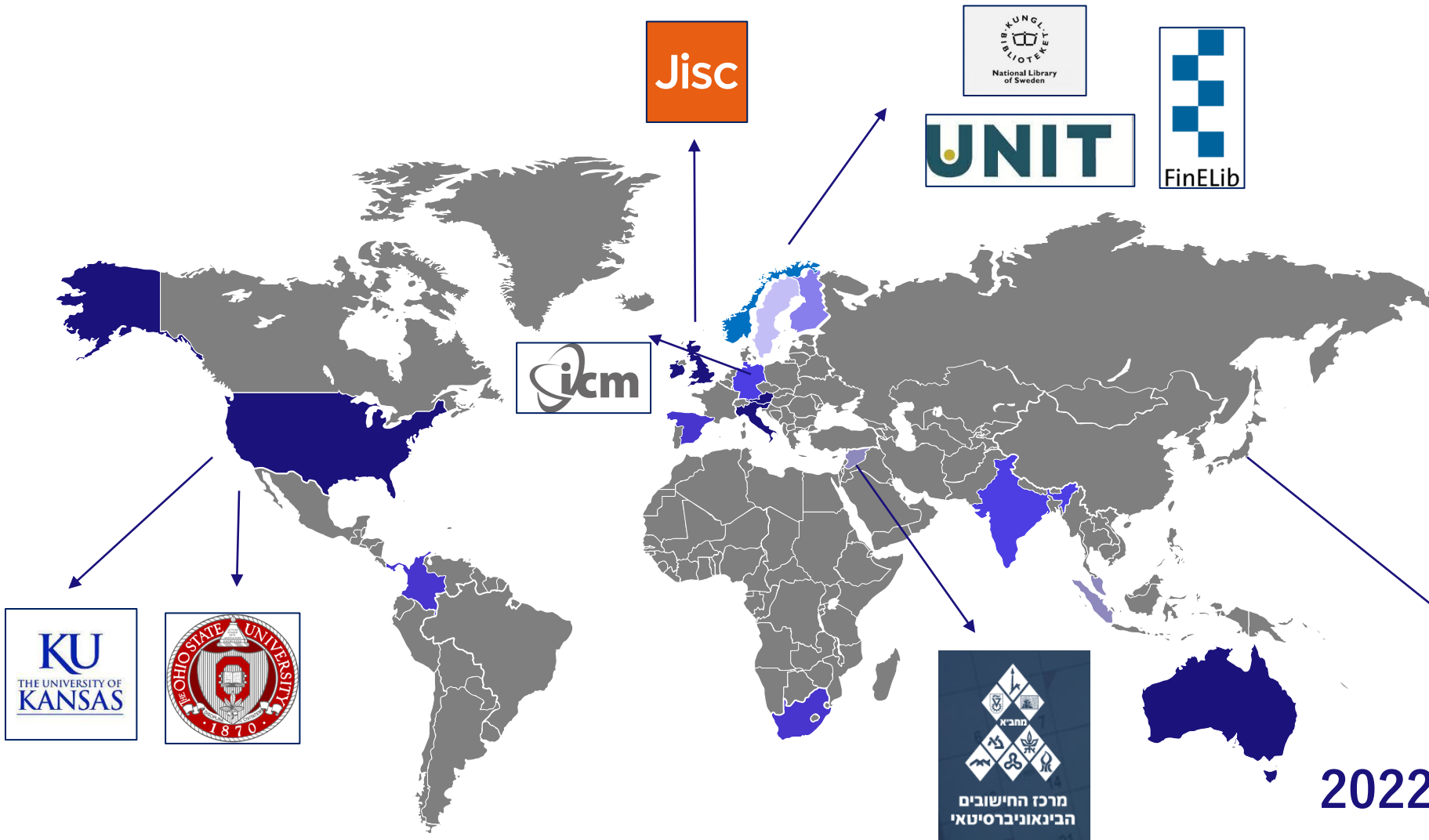
Read & Publish（R&P: 転換契約）と従来の購読モデルいずれかを選択可能

◆ 費用：購読価格に基づいて契約金額を算出

多くの機関様にとってR&Pモデルへの移行で
「購読費＋APC費用」の支出額を抑えられる

オープンモデルへの移行のスピードは機関様によって異なることから
具体的なご提案については個別にお問合せを頂いています。
契約締結後のサポートが重要と考えております。

Taylor & Francis : 世界での転換契約締結状況



Global principles,
regional flexibility

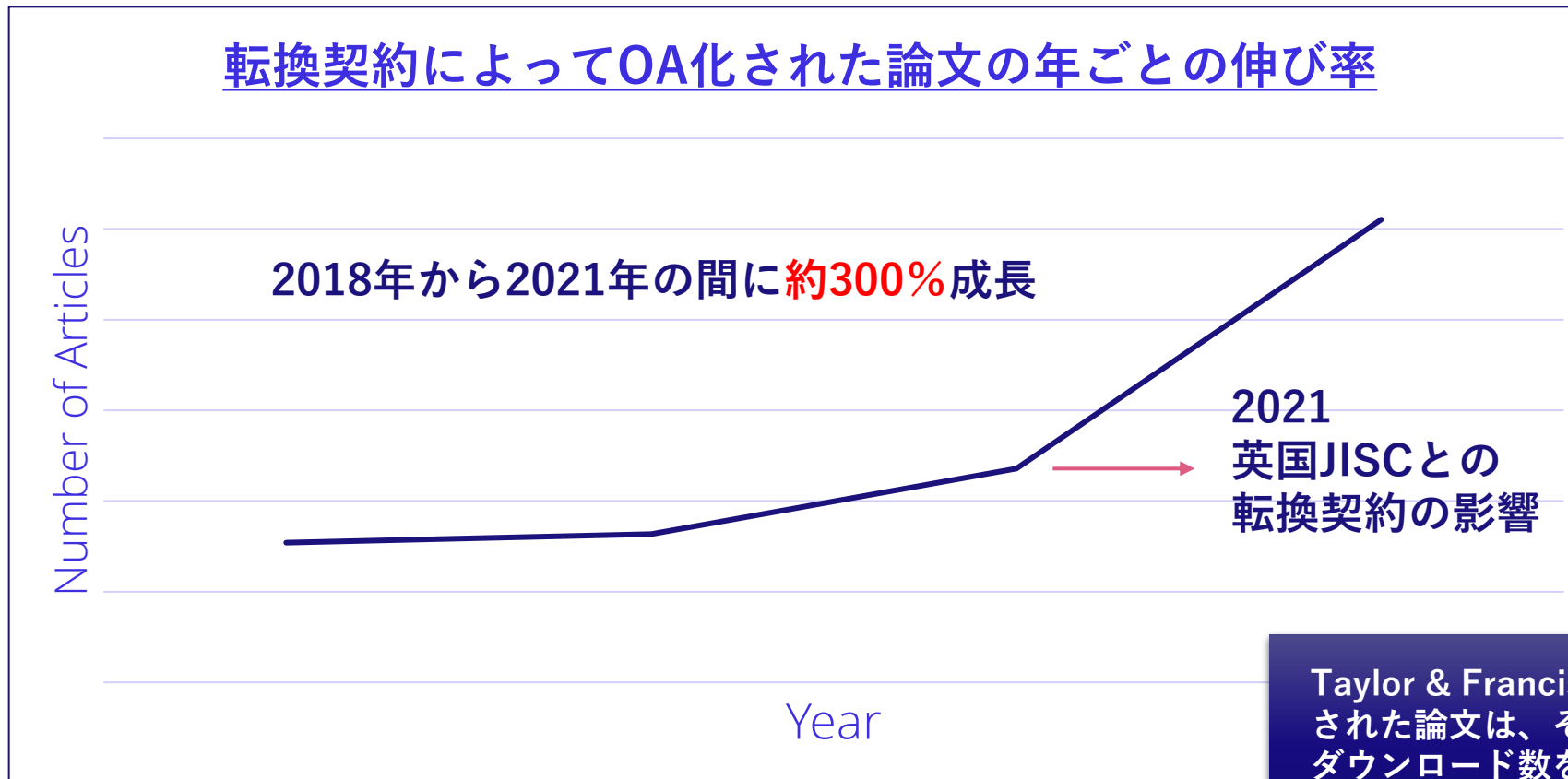
各国のオープンアクセス方針
地域・顧客のニーズ等によって、
オープンモデルへの移行の
スピードは異なる

T&Fグローバル方針
持続可能で長期的なモデルを
柔軟性を持って各地域で展開

日本で転換契約の提供開始

2022: 24 R&P Agreements

①Taylor & Francis 転換契約: OA論文数へのインパクト



一般的Open Accessの効果

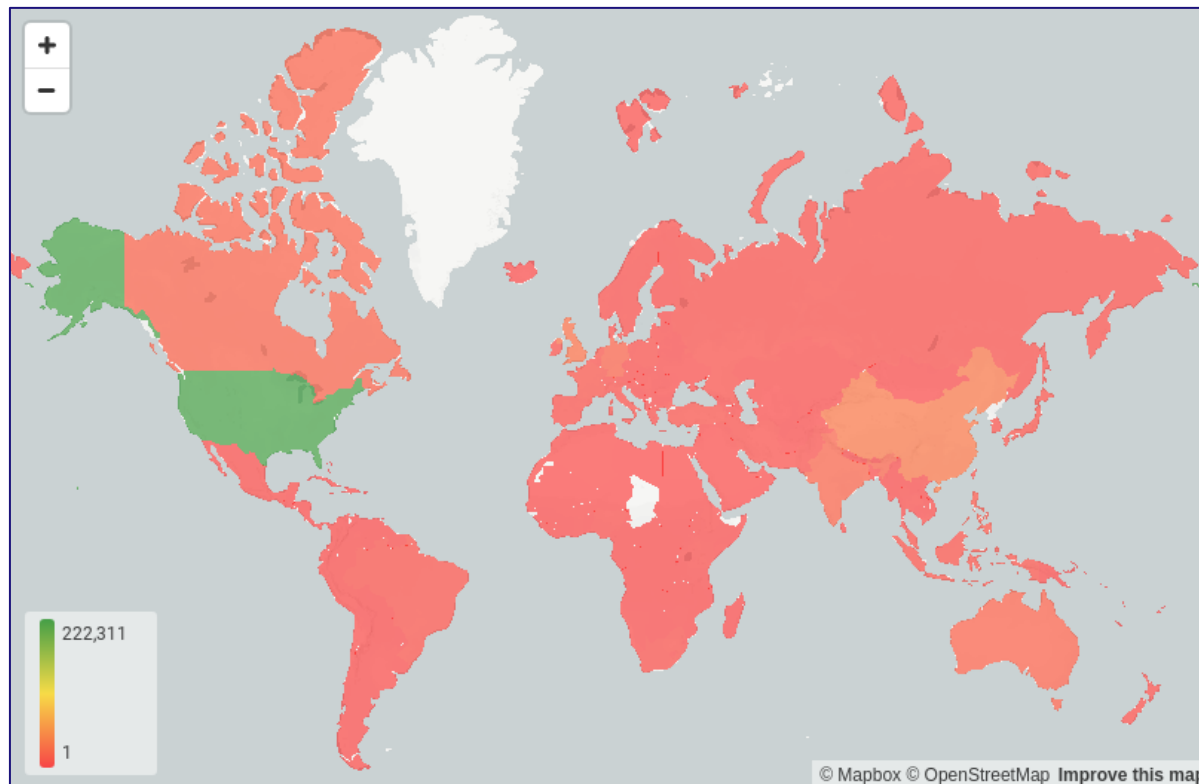
Taylor & Francis においてはHybrid OAとして出版された論文は、その他の論文と比較して7倍以上のダウンロード数を獲得しています。引用数も増加しているといったデータが多く報告されています。

Data:2018 – 2022 Year to Date (September)

②Taylor & Francis 転換契約: 米オハイオ州立大学の事例

グローバルな読者層獲得 読者数の増加のインパクト

こちらのヒートマップは、
Taylor & Francis / The Ohio State University 転換契約に基づき
OA化された論文のダウンロード数の世界的な分布を示しています。
出典 Altmetric Explorer



- 2020年 転換契約開始
- 年間総ダウンロード数：前年度比400%増
- オハイオ州立大学発の研究論文をダウンロードした国は
2019年:109カ国
2021年:185カ国に。 *Data 2019 vs 2021*

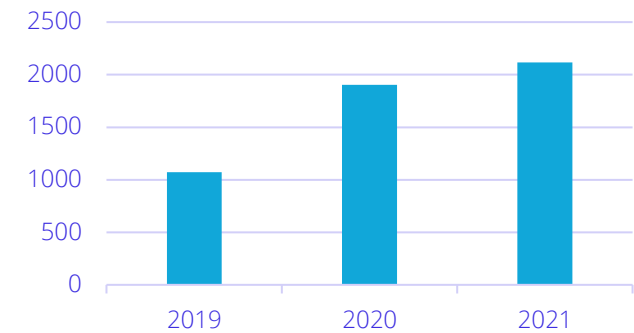
転換契約によるOA論文数増加の影響が顕著にでた事例
オハイオ州立大学発研究成果の読者が国際化し読者層が増えることに繋がり、研究成果のVisibilityが上がった

③ Taylor & Francis 転換契約: BIBSAM (Sweden) の事例 転換契約が政策方針に与えるインパクト

- 2018年 転換契約開始
- スウェーデンのコンソーシアムBIBSAMとの転換契約2018 - 2022のもとOA化された論文の政策・ポリシーに関わる引用数は6900件以上
- 最も引用されたソースは以下の通りです。
 - 欧州連合 (EU)出版局
 - 経済協力開発機構(OECD)
 - ユネスコ(UNESCO)

世界的な引用元としては、ケニア政府、ウガンダ政府、カナダ政府、イギリス政府などが挙げられます。
- 政策への影響力: 「気候変動」など世界的な政策文書に引用され、世界の変化に影響を与えるという点で、こういった研究を転換契約を通してOAとして公開することの社会的重要性を確認したい。

Policy Citation Count 2019 - 2021



Source: Overton



Full article: *A third wave of autocratization is here: what is new about it?* (tandfonline.com)

Citations

Crossref
286

Web of Science
269

Scopus
293

Views

103334





何故転換契約なのか 転換契約によって実現しようとしていること

Academic Journals の世界

【従来の購読モデル】

読者が購読料を払い閲覧する
(図書館・各機関・個人購読者 etc)

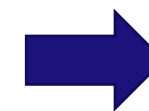
購読料の問題

【オープンアクセスモデル】

2000年頃よりインターネット上で誰でも論文が閲覧・再利用できるOAが推奨され始めた。著者がAPC (Article Processing Charge) と呼ばれるOA出版費用を負担するモデル

APCの問題

分野や世代などによる
研究環境の違い



OA化により
Visibilityがあがる
引用数が増えるという
統計が多くでている

日本でもOA化が研究力の
底上げのためにも各方面
で検討されている

転換契約：

Open Access への移行を現実的に、可能な限りスムーズに行うために
学術出版社として大学機関・学会様・その他研究機関様に提供する
サービス

各機関様による
購読状況・OA出版状況の違い

オープンモデルへの移行のスピードは様々

転換契約のインパクト

転換契約:本日ご紹介した①②③のサマリー

- 総体的なOpen Access 出版論文数の増加を促進
- GLOBALな読者層を獲得し読者数を増やし広く研究成果を届けることが可能に
- 報道機関や政策決定者など、学術分野以外の幅広い読者へのアクセスを提供
- 大学図書館様においては、多くの機関でこれまで業務内容範囲ではなかったAPCの予算の確保・管理が新しい課題となっているかと思うが、**転換契約によって購読ジャーナルへのアクセスを確保しつつオープンアクセスへの移行にも対応できるオプションが増える。**
- ジャーナルの購読費用の一部をOA出版費用に転換することで
R&P契約機関所属の**個人研究者のAPC負担は軽減される。**

Thank you very much.

tomoko.yamanojo@informa.com